



東京多摩プロバスニュース

第 64 号

■事務局: T206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2016.1.6.
■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

ふるさと多摩を若い人たちと共に

第 137 回 定例会

日 時 : 平成 27 年 11 月 4 日(水)午後 1 時 30 分より
場 所 : 関戸公民館第 2 学習室
出席者 : 26 名(会員数 32 名)

第 138 回 定例会

日 時 : 平成 27 年 12 月 2 日(水)午後 1 時 30 分より
場 所 : 関戸公民館第 1 学習室
お客様 : 埼玉浮き城プロバスクラブ会長 須郷隆氏他 2 名
出席者 : 24 名(会員数 32 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし
地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造
する
3. 会員同士の交流と意欲の
向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非
営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

「新年に思うこと」

明けましておめでとうございます。皆様お揃いでよい
年をお迎えのことと存じます。

本年もよろしくお願ひします。

昨年は、東京八王子プロバスクラブ創立 20 周年のつど
いと東京日野プロバスクラブ創立 5 周年記念式典に招か
れ交流を図り、また年末には埼玉浮き城プロバスクラブ
との交換卓話の実施などと、よい年を締めくくることが
できました。年の初めに当たり二つのことを述べてみた
いと思います。

一つは、プロバスフェア開催のことです。現在、澤地域奉仕委員長を実行委員長
として委員会を立ち上げ、計画を練っているところです。前回のプロバスフェアの

倉賀野武士副会長



開催時の記録を見ますと、若かった会員のパワーが結集し、名実ともに充実
した内容で熱気が伝わってくるようです。あれから 5 年余たつたこの時期に
もう一度、当クラブの理念に立ち返って、地域社会の奉仕として何をしてきた
のか、何をなすべきかを会員各人が考えるきっかけになればと思います。
今までの蓄積と会員個々の持ち味を生かし総力をあげて成功させましょう。

もう一つは活動の基盤である地元をもっとよく知ろうということです。多
分皆さんもそうだと思いますが、現役の頃は自宅と職場を往復の会社人間で、
地元のことをよく知る余裕もありませんでした。今回「多摩プロバスかるた」
により多くの新しい発見がありました。わが町多摩の歴史や、現状の問題
点をよく知ることが活動の原点ではないかと思われます。暖冬傾向とはいえ
寒さはこれからが本番、お互いに風邪などをひかないように、なるべく医療
費を使わないことが高齢者の一番の社会貢献です。

左のスケッチは、「多摩プロバスかるた」
に詠まれた「熊野神社震ノ関南木戸柵」



◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

1. 幹事報告

1.1. 東京日野プロバスクラブ5周年記念式典

11月19日高幡不動尊客殿で挙行された式典に、当クラブより神谷真一会長以下6名参加。

1.2. かるた普及活動

今後のかるた普及活動は、会長直轄のワーキンググループを編成して対応する。なお、増刷する場合には、新たなプロジェクト編成必要。

1.3. 中村昭夫会員 多摩市市民表彰受賞

11月1日の市政施行記念として、市制の振興に寄与し、市民の福祉増進に功績があったとして、10月30日(金)開催の表彰式で「コミュニティ部門」で受賞された。

1.4. 第11回多摩市中学生俳句大会表彰式

東京多摩ロータリークラブ(以下RC)及び東京多摩聖蹟ロータリー衛星クラブ主催の中学生俳句大会表彰式が、12月12日(土)永山ベルプホールにて執り行われた。式には、阿部多摩市長・神山教育委員会教育部参与・篠塚東京多摩RC会長・由利審査委員長・藤本からまつ俳句会同人他教員、父兄、生徒など関係者約170名が参列、当クラブからも神谷会長・倉賀野副会長が出席。

今大会には、支援学級を含む市立9校から、昨年を上回る2,770句の応募があり、佳作を含め100句と最優秀学校賞並びに奨励賞2校が表彰された。当クラブでは、例年通り第一次から最終までの選考に全面的支援を行った。

多摩市長賞・審査委員長賞をはじめ、次々と表彰が行われ、当クラブの東京多摩プロバス賞5句に対して、神谷会長から賞状と副賞を授与した。表彰後、由利審査委員長より講評があった。入選作品は、1月21~26日まで聖蹟桜ヶ丘京王百貨店5階のブリッジギャラリーで展示予定。

稲田興幹事

交換卓話：埼玉浮き城プロバスクラブ会長 須郷隆氏による「プロバスと共に」のテーマで実施。 関連記事P4参照

3) 定例会の予定と開催場所

第139回定例会 1月6日(水) 関戸公民館第2学習室
第140回定例会 2月3日(水) 関戸公民館第2学習室

4) 卓話の予定

1月 岡野一馬会員「旅の話」 2月 増山敏夫会員

2.2. 研修・親睦委員会

鈴木達夫委員長

1) 11月20日(金)多摩動物公園散策

ユキヒヨウ・コアラ・飛び交う蝶などを観察、童心にかえって楽しんだ。参加者16名 関連記事P4参照

2) 12月2日(水)恒例の忘年会

京王クラブにて37名の参加を得て盛会裏に開催。東京多摩RC1名、東京八王子PC4名、東京日野PC3名、埼玉浮き城PC3名の計11名のお客様のご参加で楽しく交流した。

関連記事P4参照

交換卓話で御来訪の
埼玉浮き城PC 須郷隆
会長(右から2人目)
澤田良一副会長、畠山
恒雄各位と交流親睦

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

1) ESD、出前授業の講師可能者10名の授業内容のフォーマットを統一し、年明けから教育委員会や学校回りを始める。
2) 多摩市の創生再生プランでは、具体的に活動を始める。

2.4. 広報委員会

北村克彦委員長

1) プロバスニュース第64号1月6日(水)に発行配布。

今号は6ページ構成とし、表紙の写真は多摩プロバスかるたを題材にし、以後シリーズ化していく。

2) ホームページ更新11月17日に実施。

アクセス数は月平均100回程度で推移している。

◇◇◇ プロバスフェア実行委員会 ◇◇◇

澤雄二実行委員長

前回のプロバスフェアの開催は、5年前で会員の年齢も若く情熱もエネルギーも今より横溢していた。今年フェアの開催が決まったのは、神谷会長の強い熱意だった。「5年前より、会員一人ひとりのボランティア活動ははるかに幅広く、充実もしてきている。多摩プロバスの認識や評価も格段と向上し、多摩市での存在価値も定まりつつある。今、この時プロバスの更なる発展を期して全員の力を結集したい。」「よし、やってみよう。」会員の気持ちが一つになった。

実行委員会の会議は、4回すべてに開かれた。回を追う毎に議論が熱くなっている。決定事項は次の通り。

1) 開催期間と会場：平成28年6月10日(金)～13日(月)、

関戸公民館ギャラリー

2) イベント開催：6月12日(日)、関戸公民館大会議室

東京多摩プロバスクラブ賞の五句	
夕焼けを大きくかぶる寺の屋根 多摩永山中学校 水野谷佳也	稻妻が空を切りさき駆けてゆく 多摩永山中学校 清水彰人
物語の始まり伝える向日葵よ 多摩永山中学校	手のひらに綺麗な虹を持つて いる 聖ヶ丘中学校 小倉彰真
迎え火の向うに見える祖父の顔 諏訪中学校	加藤大貴

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

鈴木泰弘委員長

1) 第137回定例会 11月4日(水)

講話：「明るい未来へ分岐点に立つ多摩ニュータウン」

講師：明星大学総合理工学部教授 西浦定継氏

関連記事P3参照

2) 第138回定例会 12月2日(水)

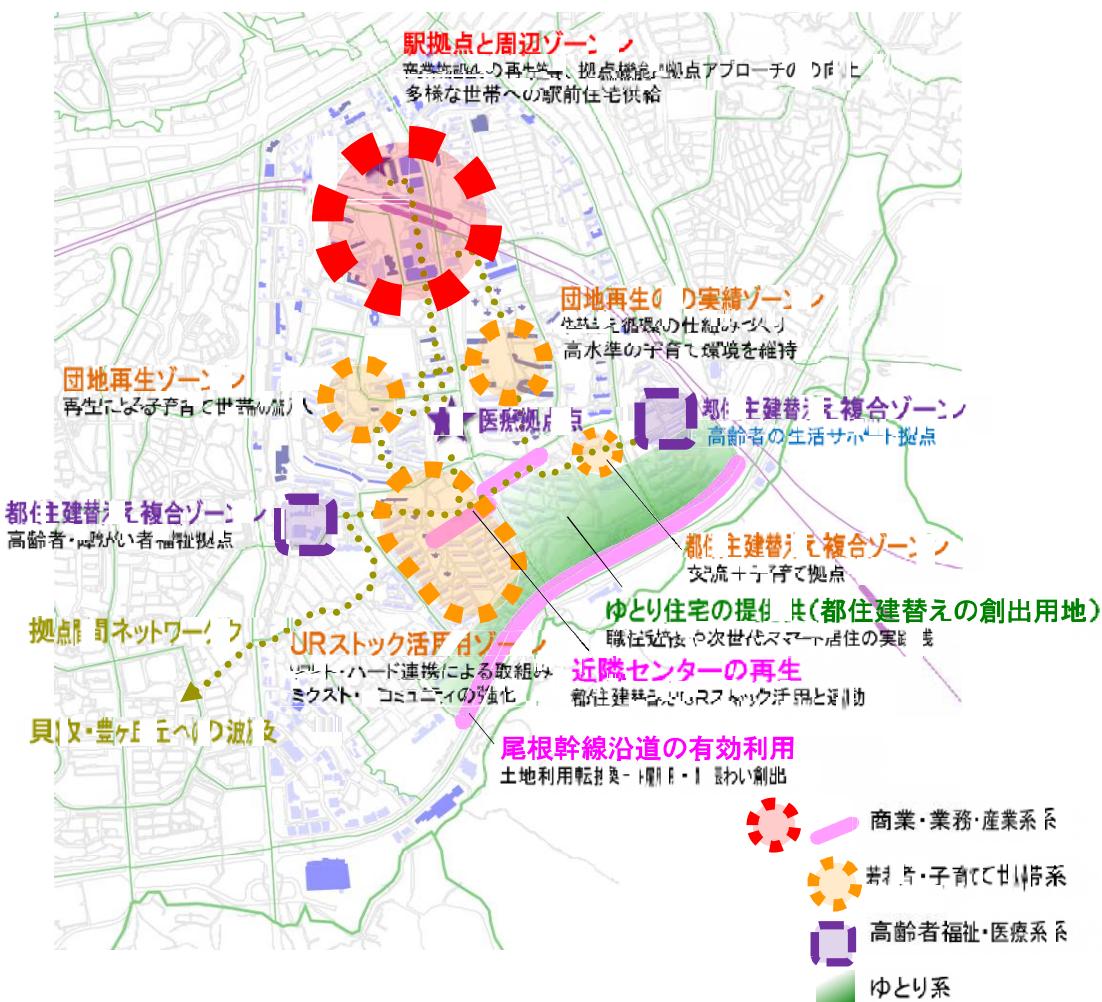
明るい未来への分岐点に立つ「多摩ニュータウン」

明星大学総合理工学部教授 西浦定縁氏

2027 年開通予定のリニア中央新幹線によって、多摩ニュータウンを取り巻く環境は大きく変わる。橋本駅にリニアが止まり出すと、その駅勢圏は 1000 万人とも言われている。また、品川から名古屋までが 40 分程と言われているので、橋本一名古屋間はそれ以下の時間で結ばれることになる。名古屋が東京の郊外部になるとも言われており、国土レベルで人の動きが大きく変わる。橋本駅のお膝元に位置する多摩ニュータウンも変貌を遂げることになるであろう。一方で、圏央道が東名、中央道、関越道、東北道を結ぶことになり、すでにインター周辺では物流拠点が整備されてきている。今後、ネットビジネスの拡大に伴う即日配達が広がり、ますます物流を中心とした産業立地が進むであろう。400 万人の人口を抱える多摩地域は、魅力的なマーケットであると同時に、新しい産業に対して質の高い労働力を提供する場にもなりうる。



では、多摩ニュータウンは、そのような動きに対してもどのような準備をしていくべきなのであろうか？その一つの解は、平成 25 年度より始められている「多摩ニュータウン再生会議」の再生方針であろう。平成 27 年度末に最終方針が発表される予定である。方針では、まずは諏訪・永山を再生の先行地域として位置づけ、駅拠点を中心としてコンパクトな都市構造への再編により、「若者・子育て世帯の呼び込み」「高齢者福祉・医療」「商業・業務・産業」「ゆとり居住環境」の 4 つの特色を持つ多様エリアとして再生することを目指している。具体的に 14 のプロジェクトを挙げ、若い世帯が魅力を感じて住み続けられるまち、高齢者が安心して老後を過ごせるまちを考えている。この取り組みの成果を、徐々に、愛宕、和田、貝取、落合、鶴牧、唐木田、聖ヶ丘などに広げていく予定である。この再生方針を具体的に進めるに際して、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）の PDCA サイクルを取り入れることにしている。特に、評価・改善の部分では常に市民との対話を通して進めしていくことを目指している。市民一人ひとりの声が、多摩ニュータウン再生に結びついていく仕組みである。



諏訪・永山が目指す都市構造イメージ（「多摩 NT 再生会議」資料より）

◇◇◇ 交換卓話 ◇◇◇

「プロバスと共に」 埼玉浮き城 PC 会長 須郷隆氏

このたび、かねてより念願であった「埼玉浮き城プロバスクラブ」との交換卓話が実現しました。講師は会長の須郷隆氏にお願いしました。

須郷氏は、昭和14年生まれの行田育ちという生粋の行田人（埼玉県人）です。同氏は、我が国の産業発展、重工業部門に影響を与えた川崎航空機（現川崎重工業）に勤務され、数々の要職を経て高度経済成長期に大いにお力を發揮され、今日の我が国の大繁栄に大いに寄与された方です。また、多摩市とも関係もおありで、営業活動の中で、当時、緑豊かな多摩の土地に往来されたとのこと。東京国際CC、桜ヶ丘CC等での楽しい思い出もある大変懐かしい場所、土地でもあるとのことです。

行田市は古い町で、「行田の足袋」で全国に名が知られ、最盛期には全国の足袋生産の80%を占めていた。また、埼玉には古墳（さきたま古墳群）も数多くあり、歴史のある土地柄でもある。

そのような土地で5年目を迎えた埼玉浮き城PCの会長としてその運営に携わり、39名の会員の貴重な経験を生かし、豊富な知識、趣味等を通じ会員の懇親を深め、着実にその成果を挙げているとのこと。今後もプロバスクラブの諸活動を円滑に進めていくことが自分を育ててくれた埼玉、行田の社会への恩返しのつもりでプロバスクラブの一員として行動したいと述べられていました。

昨年は、「藩校サミット」を無事に開催することができ、着々と同クラブの成長している姿を印象づけられた。今後も、先輩クラブ共々その活躍が期待されている。

（文責 濑尾日出男会員）



迎え、当クラブから26名の総勢37名。

各来賓の挨拶と紹介をいただき、91歳を迎えた平田哲郎会員による乾杯発声後、各クラブとの相互交流が深まり、会員間で意見交換され親睦を図る良い機会になった。宴の盛り上がるころには自慢のカラオケが始まり、最後は全員で肩を組み「プロバスとみちづれ」「星影のワルツ」を合唱し、実りの多い忘年会でした。

2. 多摩動物公園の珍しい動物と紅葉を訪ねて

西村政晃会員



動物園というと、ライオン、象、キリンなどのアフリカ圏の動物が連想され、多くの人が何回も見ています。実際にはアジア圏、オーストラリア圏にも珍しい動物がたくさんいます。そこで、11月20日（金）、16名で紅葉の美しい多摩動物公園に、このアジア圏とオーストラリア圏の動物に絞って見学に出かけました。アジア圏では、白と黒のツートンカラーがユニークなマレーパク、オーストラリア圏ではコアラなど、童心にかえって楽しみました。



◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

1. 翁句会

10月31日、11月1日の2日間、関一つむぎ館で催されたつむぎ館祭りのなかで、当クラブ翁句会の作品が、多摩かるたと共に展示された。訪れた市民からの評判もよく、当クラブの活動の一端が理解されたと思う。

神谷真一会員



2. 多摩地区3PC交流ゴルフコンペ 鈴木達夫会員

10月30日（金）、好天に恵まれ、八王子・日野・多摩PCによる、第4回交流ゴルフ大会が開催された。恒例の相武カントリー倶楽部で、幹事クラブは日野PC。多摩から増山敏夫・澤雄二・登坂征一郎・北村克彦・鈴木達夫各会員の5名、八王子は9名、日野は9名。計23名の参加。



多摩PCの五人衆

優勝は八王子の杉山友一さん、準優勝は八王子の矢島一雄さん、3位は日野の田口賀夫さんでした。多摩は北村克彦会員が6位、登坂征一郎会員がニアピン賞、他は17位以下の成績でした。次回の健闘を期待します。次回は5月を予定しています。

◇◇◇ 会員の活動 ◇◇◇

1. 講演「まちづくり家づくり」 山田正司会員

11月21日(土)、関戸・一ノ宮コミュニティーセンターのつむぎ館セミナーで、「まちづくり家づくり」を演題に、設計者は何を考えるか“タウンハウス調査を設計して”の副題をもとに約1時間半の講演を行った。多摩PC会員も含めた30余名の参加者に現役時代の多摩ニュータウン設計の経験をもとに、日頃の多摩地域のまちづくりへの想いを述べた。関戸・一ノ宮エリヤは多摩市にあっても多摩ニュータウンとは別の地域拠点となっている。両者は互いに理解を深めてこそ地域の発展があると信じて、わが多摩PCも日頃活動していることを申し添えた。多摩市で最初の郷土かるた作成、毎年の中学生俳句大会への協力、ESD活動への参加等の具体的な事例をあげて説明した。

2. 多摩市民茶会 小西加葉子会員

11月8日(日)多摩市民茶会が関戸公民館で開催されました。私の担当した焙茶の席には175席の入席がありました。焙茶とはほうじ茶のことです。

昔はお茶屋さんの前を通るとお茶の葉を焙じる良い香りがしたものでした。今ではお茶屋さんがコーヒー豆まで売っているが、私にしてみれば、せめてお茶の葉のルーツが同じ紅茶、ウーロン茶までにして欲しいと思っています。茶席には野点傘の下に盛り物として、大湖石、靈芝をそえた庭に、ススキ、野菊、照葉など晩秋の趣を取り入れました。以前、阪東会員から頂いたお母様ご愛用の茶卓を今回使わせて頂きましたが、「久しぶりに母の夢を見たの、ありがとう」と言われ、嬉しく思いました。お茶会での良い思い出が一つ増えました。

3. 全陶展 上田清会員

恒例の全陶展が11月に東京都美術館で開催され、小生も大皿(直径 52 cm)と半筒抹茶茶碗の二点を出品させて頂きました。また同時期に「モネ展」や「兵馬俑展」も開催されて上野の森は芸術の秋一色、改めて世界の美術品を気軽に鑑賞できる文化都市東京の恩恵に感謝しているところです。

いつしか土と遊び遊ばれて早や30年、そろそろ全陶展への出品も体力的に難しくなりつつあることから、陶芸に興味をもち始めた孫達にイロハを伝授できればと淡い夢を見

ている昨今です。



入選作品 2点

4. 歌で若返ろう楽しい健康づくり 小西加葉子会員

多摩市歌の会の企画、多摩市関戸公民館共催による、多摩市関戸公民館市民企画講座の一つ、「歌で若返ろう楽しい健康づくり」が12月15日に第1回が開かれた。

東北大学未来科学技術共同センターの川島隆太教授によれば、「脳は誰でも鍛えれば活性化して若返る」のだそうです。そこで今回、4回にわたって「歌で若返る旅」にでかけることにしました。

第1回目の出席者は63名、北村克彦会員を含む男性は8名で他は女性でした。滝本春夫先生の指導により、まずラジオ体操をしてから、皆の知っている歌を歌いながら動作したり、懐かしい歌謡曲を前奏部分で歌の題名を考えたり、作詞・作曲の経緯なども聞かせてもらいながら2時間を楽しく過ごすことができました。

5. 原生画展 岡野一馬会員・山田正司会員

「原生会」の展覧会が、11月26日から12月1日までベルブ永山で開催された。

原生会は多摩市近辺に住む60歳以上の男性から構成され、それぞれが個性的な絵を好きなように描いて、年1~2回の展覧会を開いている。

6. 式年遷宮奉祝献茶 阪東熙子会員

10月30日(金)京都賀茂別雷神社において、21年に一度の式年遷宮奉祝献茶が行われ、武者小路千家家元が奉仕なされた。ここは、背後の山をご神体とする社で、正殿は「御籍屋(みふだのや)」といい、小高い林の中に建立されていて、登る石段が巾狭くすり減り、歴史と信仰の深さを物語っていた。前庭は横に広がり、拝服席客殿が遠く難儀したが、夜来の雨が上がり緑濃き景に社の朱色が映えご神体からの清流を引き込んだ。草庵「土屋(つちのや)」の一般に、超俗脱塵の日和を満喫した。翌11月1日、私は一人で元離宮二条城、清流園内の和楽庵茶会に出かけ、さらに世界遺産修理のための一口城主募金会場へ足を延ばし心軽やか城主気分?に浮かれていたが、京都駅に着く頃には、連日の茶席巡りで足取り重く、欲張った日程を反省しつつ車内で微睡み帰京した。



◇◇◇ 我が故郷 ◇◇◇

私のふるさと[本籍地がふるさと] 村上伸茲会員

○はじめに

今、全国の“ふるさと”は「ふるさと納税」で活気がありますね。納税義務を果たし、故郷の名産品をいただき、家族一同で、ふるさとの自慢を話合いながら過ごすことは最高ですね。

私は、父の転勤や、母の介護などのために20回以上住居を変えました(ごめんなさい。わたしの転職や、結婚のためにもあります)。私の場合、歌や和歌に述べられているふるさとのロマンチック性は少ないです。ただ、多くの友人が北から南までできました。

○ふるさとーとつりー1

学生時代、夏休みや春休みには、鳥取の実家に帰省しました(させられた)。

○ふるさとーとつりー2

結婚して、戸籍を作るとき「お前には鳥取県人の血液がながれている。本籍地は鳥取市にしなさい」といわれた。

○ふるさとーとつりー3

昭和43年、学位記(PhD)が授与されたが、「生年月日と本籍地：鳥取県」が読み上げられ、鳥取において新しい自分：科学者が生まれたことを実感しました。

○ふるさとじまん

今、鳥取について自慢できることに、つぎのことがあ

◇◇◇ ハッピーバースデイ ◇◇◇

11月誕生日を迎え
られました!

12月誕生日を迎
られました!



舟賀野武士・村上伸茲・吉岡喜久恵各会員 青木ひとみ会員

プロバス
プロバス
多摩プロバスクラブ
集う我等プロバスクラブ
聖峰 審士を仰ぎつつ
豊かな知識身はうけて 次の世代の者の
教導強く糧となる

東京多摩プロバスソング
作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫
聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に開まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集つ我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ
心の葉を愛まとい

ります。

- ・「鳥取で田舎暮らしをしませんか」募集中
- ・鳥取市(山陰ジオパーク)：鳥取砂丘、湖山池、白兎海岸、砂の美術館など) 宣伝中
- ・2016年7月、伯耆大山にて、全国ホタル研究会全国大会が開催される。

○おわりに

鳥取県は全国で最も人口の少ない県です。しかし、全員でふるさとーとつりを活性化しようと頑張っています。応援下さい。

写真左: 山陰海岸ジオパークのひとつ雄大な「鳥取砂丘」

写真下左:「砂の美術館」

写真下右: 同館壮大な「砂の彫刻」の一部



◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

当クラブ発足以来12回目の正月を迎え、プロバスニュースも第64号を送り出すことができた。

今号も大変充実した内容となり、巻頭言で倉賀野副会長が、次期の会長に擬せられることを念頭に抱負と希望を述べられ、また、予てから計画されていた埼玉浮き城PCとの交換卓話が漸く実現し、須郷隆会長から同クラブの多彩な活動について紹介をいただいた。

また、講話として、明星大学総合理学部西浦定繼教授から多摩地区の将来性、特にリニア、圏央道の完成による大きな可能性について詳細な説明があり大変感銘を受けた。

当会員のクラブ外での活動もそれぞれに活躍の場を広げておられ、山田正司会員は“まちづくり家づくり”的講演で、小西加葉子会員は“多摩市民茶会”と、“歌で若返ろう楽しい健康づくり”運動の推進で大活躍、また上田清会員は素晴らしい陶芸作品で全陶展で入選される等々、クラブ会員の外部での活動はまさに刮目すべきものがあり今後の一層の活躍が期待されている。

(広報委員 平田哲郎記)

◆◆訂正のお願い◆◆

既発行の本紙第63号6ページの2.「日本伝統文化の継承」の文中で;誤:「水沓」、「点目台」⇒正:「木沓」、「天目台」と謹んで訂正させていただきます。